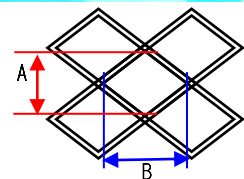
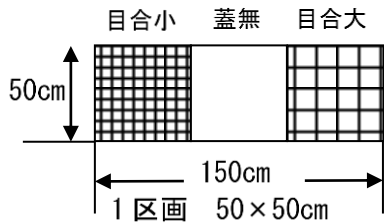


ヤマトシジミ食害影響試験 十三湖山田川河口②

十三湖山田川河口に設けた試験区周囲のシジミ密度は、開始時 44.4 個/m²、終了時は 55.5 個/m²と低く、試験前後で大きな変化はなかったのですが、ネットで覆った試験区では異なる結果となりました。

食害影響試験 山田川河口試験区 (3 連目合別試験結果)

50cm×50cm の 3 区画が連続した施設は、大きな目合の区画は開口部 30×35mm のネトロンネットを覆い (蓋) として、小さな目合の区画は開口部 10×12mm のネットを覆いとして使いました。また、もう一つの区画は蓋をせず天然の状態 (解放区) としました (下図、写真)。試験区画間をシジミが移動しないように、各区画の周囲を幅約 20cm の小さい目合いのネットで囲い、このネットを 15cm ほど埋設することで施設を安定させました。



	A (mm)	B (mm)
目合小	10	12
目合大	30	35

ネトロンネットの目合

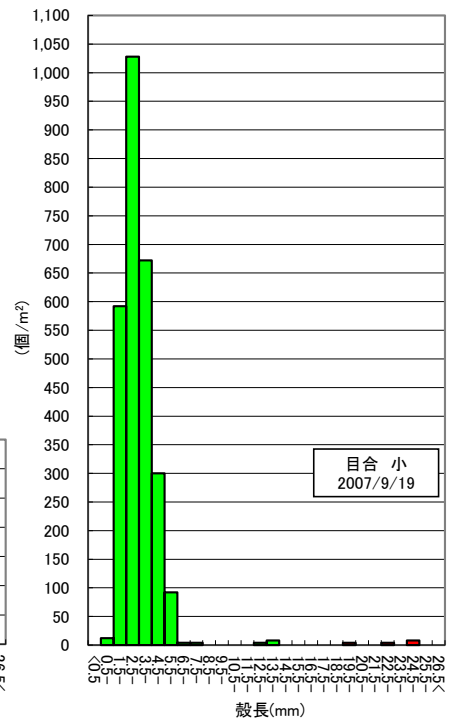
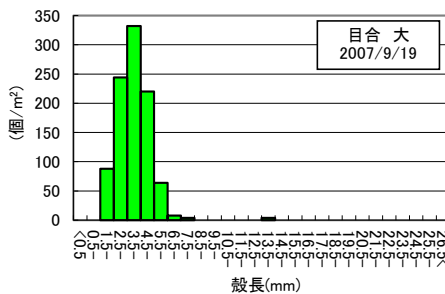
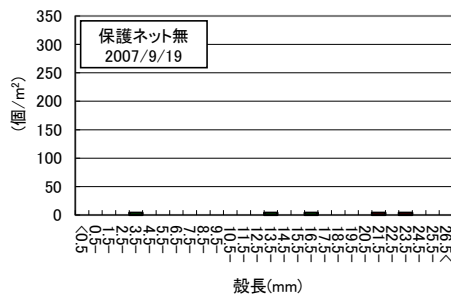
食害防止ネット (左: 概略図、右: 使用した食害防止ネット)

終了時の 9 月 19 日に、各区の表層の底質を 0.5mm 目合の網で深さ 5cm 程度全て採取し、1mm 目合いのフルイに残ったシジミの殻長を測定しました。

保護ネットの無い開放区のシジミの数は 5 個で密度は 20 個/m²、周囲の密度 (55.5 個/m²) よりやや低い結果でした。一方で目合大のシジミの数は 241 個で密度は 964 個/m²となり周囲の密度の 17 倍、目合小のシジミの数は 683 個で密度は 2,732 個/m²となり周囲の密度の 49 倍となりました。保護ネット内のシジミは、殻長 1.5~6.4mm がほとんどでした。



シジミ保護ネット内のシジミ (左: 保護ネット目合大、右: 目合小)



シジミ食害保護ネットの目合別残留シジミの殻長組成 (左から保護ネットなし、保護ネット目合大、目合小)